



# 青学大 総合3連覇



## 復路独走 大会記録を更新

ゴールし3連覇を果たした青山学院大の折田壮太(3日、東京・大手町の読売新聞社前で)＝杉本昌大撮影

第102回東京箱根間往復大学駅伝競走(関東学生陸上競技連盟主催、読売新聞社共催)は3日、神奈川県箱根町の芦ノ湖駐車場入り口から東京・大手町の読売新聞社前までの5区間、109・6キロで復路が行われ、往路優勝の青山学院大が首位を譲らず、前回に続く大会新記録の10時間37分34秒で3年連続9度目の総合優勝を果たした。同大会の総合3連覇は2度目。往路復路の大会記録も更新した。

往路4位の国学院大が2位、同6位の順天堂大が3位、同2位の早稲田大は4位、同3位の中央大は5位だった。

青山学院大は6区石川浩輝(1年)が2位との差を広げ、8区塩出翔太(4年)が3年連続区間賞となる区間新記録の快走、9区佐藤有一(4年)も区間賞の走りで首位を守った。国学院大は7区高山豪起(4年)が区間賞で2位に浮上した後、猛追したが及ばなかった。

6位駒沢大、7位城西大、8位創価大、9位帝京大、10位日本大までが、次回のシード権を獲得した。

(記録は速報値)